

帝國政府聲明

(昭和十三年十一月三日)

0001

今ヤ、陛下ノ御稟威ニ依リ、帝國陸海軍ハ、克ク廣東、武漢三鎮ヲ政略シテ、支那ノ要域ヲ戡定シタリ。國民政府ハ既ニ地方ノ一政権ニ過キス。然レトモ、同政府ニシテ抗日容共政策ヲ固執スル限り、コレカ潰滅ヲ見ルマテ、帝國ハ斷シテ矛ヲ收ムルコトナシ。

帝國ノ冀求スル所ハ、東亞永遠ノ安定ヲ確保スヘキ新秩序ノ建設ニ在リ。今次征戰究極ノ目的亦此ニ存ズ。

コノ新秩序ノ建設ハ日滿支三國相携ヘ、政治、經濟、文化等各般ニ亘リ互助連環ノ關係ヲ樹立スルヲ以テ根幹トシ、東亞ニ於ケル國際正義ノ確立、共同防共ノ達成、新文化ノ創造、經濟結合ノ實現ヲ期スルニアリ。是レ實ニ東亞ヲ安定シ、世界ノ進運ニ寄與スル所以ナリ。

帝國力支那ニ望ム所ハ、コノ東亞新秩序建設ノ任務ヲ分擔センコトニ在リ。帝國ハ支那國民力能ク我力眞意ヲ理解シ、以テ帝國ノ協力ニ應ヘムコトヲ期待ス。固ヨリ國民政府ト雖モ從來ノ指導政策ヲ一擲シ、ソノ人的構成ヲ改替シテ更生ノ實ヲ擧ケ、新秩序ノ建設ニ來レラ多トスルモノナリ。

リ参スルニ於テハ敢テ之ヲ拒否スルモノニアラス。

帝國ハ列國モ亦帝國ノ意圖ヲ正確ニ認識シ、東亞ノ新情勢ニ適應スヘキヲ信シテ疑ハス。就中、盟朋諸國從來ノ厚誼ニ對シテハ深クコレヲ多トスルモノナリ。

惟フニ東亞ニ於ケル新秩序ノ建設ハ、我力肇國ノ精神ニ淵源シ、コレ完成スルハ、現代日本國民ニ課セラレタル光榮アル責務ナリ。

帝國ハ必要ナル國內諸般ノ革新ヲ斷行シテ、愈々國家總力ヲ擴充ヲ圖リ、萬難ヲ排シテ斯業ノ達成ニ邁進セサルヘカラス。

茲ニ政府ハ帝國不動ノ方針ト決意トヲ聲明ス。

0002

0007

アジア歴史資料センター

REEL No. A-0215

Statement of the Japanese Government

November 3, 1938.

By the august virtue of His Majesty, our naval and military forces have captured Canton and the three cities of Wuhan; and all the vital areas of China have thus fallen into our hands. The Kuomintang Government exists no longer except as a mere local régime. However, so long as it persists in its anti-Japanese and pro-communist policy our country will not lay down its arms -- never until that régime is crushed.

What Japan seeks is the establishment of a new order which will insure the permanent stability of East Asia. In this lies the ultimate purpose of our present military campaign.

This new order has for its foundation a tripartite relationship of mutual aid and co-ordination between Japan, Manchoukuo and China in political, economic, cultural and other fields. Its object is to secure international justice, to perfect the joint defence against Communism, and to create a new culture and realize a close economic cohesion throughout East Asia. This indeed is the way to contribute toward the stabilization of East Asia and the progress of the world.

What

0004

- 2 -

What Japan desires of China is that that country will share in the task of bringing about this new order in East Asia. She confidently expects that the people of China will fully comprehend her true intentions and that they will respond to the call of Japan for their co-operation. Even the participation of the Kuomintang Government would not be rejected, if, repudiating the policy which has guided it in the past and remolding its personnel, so as to translate its re-birth into fact, it were to come forward to join in the establishment of the new order.

Japan is confident that other Powers will on their part correctly appreciate her aims and policy and adapt their attitude to the new conditions prevailing in East Asia. For the cordiality hitherto manifested by the nations which are in sympathy with us, Japan wishes to express her profound gratitude.

The establishment of a new order in East Asia is in complete conformity with the very spirit in which the Empire was founded; to achieve such a task is the exalted responsibility with which our present generation is entrusted. It is, therefore, imperative to carry out all necessary internal reforms, and with a full development of the aggregate national strength, material as well as moral, fulfil at all costs this duty incumbent upon our nation.

Such the Government declare to be the immutable policy and determination of Japan.

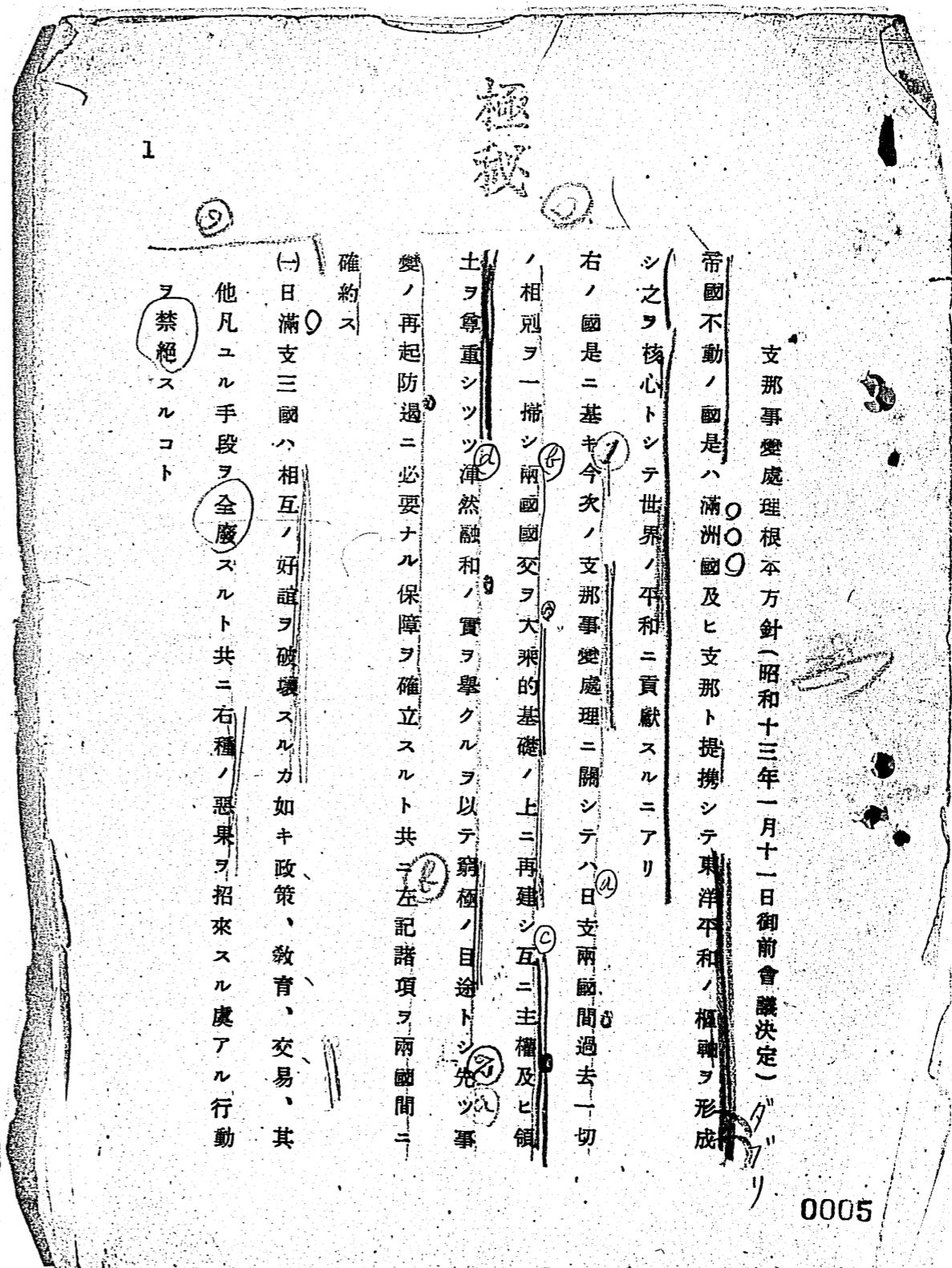
0003

REEL No. A-0215

0008

アジア歴史資料センター

0005



0006

- 2
- (一) 日滿支三國ハ互ニ相共同シテ文化ノ提携防共政策ノ實現ヲ期スル  
 コト
- (二) 日滿支三國ハ産業經濟等ニ關シ長短相輔有無相通ノ趣旨ニ基キ  
 同互惠ヲ約定スルコト
- (三) 日方鉄ニ基キ帝國ハ特ニ政戰兩略ノ緊密ナル運用ニ依リ左記各項  
 ノ適切ナル實行ヲ期ス
- (一) 支那現中央政府ニシテ此際反省誠意シ誠意ヲ以テ和ヲ求ムルニ於  
 テハ別紙甲日支媾和交渉條件ニ準據シテ交渉ス
- 帝國ハ將來支那側ノ媾和條項實行ヲ確認スルニ至ラハ右條件中ノ  
 保障條項別紙乙ヲ解除スルノミナラス更ニ進テ支那ノ復興發展ニ  
 褒心協力スルモノトス

4

ス  
對外啓發ニツキテモ亦同シ

0008

3

- (一) 支那現中央政府カ和ヲ求メ來ラサル場合ニ於テハ帝國ハ爾後之ヲ相手トスル事變解決ニ期待ヲ掛ケス 新興支那政權ノ成立ヲ助長シコレト兩國國交ノ調整ヲ協定シ更生新支那ノ建設ニ協力ス支那現中央政府ニ對シテハ帝國ハ之力潰滅ヲ圖リ又ハ新興中央政權ハ全下ニ收容セラルル如ク施策ス
- (二) 本事變ニ對處シ國際情勢ノ變轉ニ備ヘ前記方針ノ貫徹ヲ期スル爲國家總力就中國防護ノ急速ナル培養整備ヲ促進シ第三國トノ友好關係ノ保持改善ヲ計ルモノトス
- (三) 第三國ノ權益ハ之ヲ尊重シ專ラ自由競爭ニヨリ對支經濟發展ニ優位ヲ獲得スルコトヲ期ス
- (四) 國民ノ間ニ事變處理根本方針ノ趣旨ヲ徹底セシムル様國論ヲ指導

0007

REEL No. A-0215

0010

アジア歴史資料センター

別紙 甲

日支媾和交渉條件細目

0009

- 一、支那ハ滿洲國ヲ正式承認スルコト  
二、支那ハ排日及反滿政策ヲ放棄スルコト  
三、北支及内蒙ニ非武装地帶ヲ設定スルコト  
四、北支ハ支那主權ノ下ニ於テ日滿支三國ノ共存共榮ヲ實現スルコト  
當ナル機構ヲ設定シ之ニ廣汎ナル權限ヲ賦與シ特ニ日滿支經濟合作ノ實現ヲ實現スルコト  
五、内蒙古ニハ防共政策ヲ確立シ日滿兩國ノ同政策遂行ニ協力スルコト  
外蒙ニ同シ

5

0010

② 中支占據地域ニ非武装地帶ヲ設定シ又大上海市區域ニ就テハ日支協力シテ之カ治安ノ維持及經濟發展ニ當ルコト

八、日滿支三國ハ資源ノ開發、關稅、交易、航空、交通、通信等ニ關シ所要ノ協定ヲ締結スルコト

△九、支那ハ帝國ニ對シ所要ノ賠償ヲナスコト

附記。

- (一) 北支内蒙及中支ノ一定地域ニ保障ノ目的ヲ以テ必要ナル期間日本軍ノ駐屯ヲナスコト  
(二) 前諸項ニ關スル日支間ノ協定成立後休戰協定ヲ開始ス  
支那政府カ前記各項ノ約定ヲ誠意ヲ以テ實行シ日支兩國提携共助ノ我方理想ニ眞ニ協力シ來ルニ於テハ帝國ハ單ニ右約定中ノ保障的條

項ヲ解消スルノミナラス進テ支那ノ復興及其ノ國家的發展、國民的  
要望ニ衷心協力スルノ用意アリ

7

0011

0012

別紙乙

〔別紙中中保障條項タルモノ左ノ如シ

一、第三塙ノ非武装地帯

二、第四塙ノ均衡ニ富リ保障ノ目的ヲ以テ設定セラルヘキ特殊權  
益及之力爲存直ラ必要トスル機關

三、第七塙ノ非武装地帯

四、附記〔及之ニ伴フ軍事施設、主要交通ノ管理権元ニ關スル權  
益

〔媾和ニ關連シテ廢棄スヘキ約定

一、梅津何應欽協定、塘沽停戰協定、土肥原秦德純協定、上海停  
戰協定

8

REEL No. A-0215

0012

アジア歴史資料センター

二、保障事項ノ解消ト同時ニ從來ヨリ有スル對支特殊權益一例ヘ  
ハ治外法權、租界、駐兵權等ノ如シノ廢棄ヲ考慮ス

9

0013

0013

アジア歴史資料センター

極秋

1

御前會議ニ於テ大本營陸軍部トシテノ御報告

本日ノ議題タル支那事變處理根本方針ニ關シ大本營陸軍部ト致シマ  
シテ内閣側ト意見ノ一致ヲ見ルニ至リマシタ見解ニ就キ御報告申上  
ケマス

日支兩國ハ先ツ國防上大局ノ見地ニ基キマスルモ相互ニ衷心ヨリ道  
義的ノ親善提携ヲ必要トスル間柄テコサリマシテ更ニ我國是ニ基ク  
兩國國交ノ大道ニ照シマスルトキハ益々其必要ヲ感スルノテコサリ  
マス

此見地ニ基キ内閣側ト種々意見ノ交換ヲ重ネマシタ結果只今外務大  
臣ヨリ御報告ニ及ヒマシタ方針案ニ關シ幕僚部トシテハ次ノ趣旨見  
解ニ基キ意見ノ一致ヲ見ルニ至リマシタ次第テコサリマス

REEL No. A-0215

0015

今次支那事變ノ解決ヲ契機トスル日支兩國ノ國交恢復ニ方リマシテ  
 ハ從來ノ國交ニ一大轉換ヲ齧シマシテ東亞ニ於ケル兩國力過去一切  
 ノ相剋ノ因果ヲ清算シ道義的基礎ノ上ニ衷心ヨリスル吾隣友好互助  
 共榮ノ實ヲ擧ケ協同シテ東洋ノ平和ヲ確保シ其道義文化ノ擁護與隆  
 ヲ圖リ延イテ世界ノ平和ニ貢獻スルコトヲ主眼トスヘキモノテアリ  
 マシテ本件ハ今次事變出兵目的ノ骨子ヲ成スモノト信セラレマス例  
 ヘハ一日支兩國間過去一切ノ相剋ヲ一掃シ兩國國交ヲ大業的基礎ノ  
 上ニ再建シト述ヘラレ又「文化提携」等ノ語句ヲ用ヒラレマシタ  
 ノハ此觀念ヲ意味スルモノト諒解致シテ居リマス

次ニ媾和ノ條件ハ勝敗及犠牲ノ程度等ニ依リ目ラ差異アルハ避ケ難イ  
 所ト存セラレマスカ前述ノ主眼ニ基キマスレハ此際ノ解決ニ當リマ

0016

シテモ戰勝國ガ戰敗國ニ對シ過酷ナル條件ヲ強要スルカ如キ心地ハ  
 豪末モ之ヲ有スヘキニアラストスル根本ノ觀念ニ立脚致シマシテ公  
 明正大ニシテ支那民眾ヲシテ努メテ帝國ノ媾和條件ニ怨恨ヲ懷カシ  
 メス且公平ナル第三國ニ對シテモ我眞意ノ存スル所ヲ認識諒解セシ  
 ムル爲努メテ寛大ナルヲ要スヘキモノト思惟致シテ居リマス

唯々支那側爲威者ノ媾和ノ内意及其不信行為ニ關スル從來ノ經驗等  
 ニモ照シ壓兵機・非武裝地帶ノ設定等必要ナル保障ハ確實ニ之ヲ把  
 握致シマスルト共ニ約諾ノ實行ニ伴ヒ之ヲ解除スルコトヲ約シマシ  
 テ爾他ノ媾和條件ト確然タル區別ヲ設ケ以テ將來ニ於ケル事端ノ再  
 發ヲ防遏シ今次事變ノ尊キ犠牲ヲ意義アラシメマスルト共ニ爾他ノ  
 �媾和條件ヲ努メテ寛大ナラシムルコトヲ容易ニシ且支那側ニ對シ將

3

REEL No. A-0215

0014

アジア歴史資料センター

0017

來ニ希望ト光明トヲ與ヘ併セテ今後成ルヘク速ニ而モ誠意アル約諾  
ノ實行ヲ促進スル等ノ目的ヲ併セ達成スルヲ得策トスル次第ト存シ  
マス本案ハ基礎條件細目ノ内容力適正穩健ニ規定サレマスナラハ正  
ニ此趣旨ニ合スルモノト見解致シテ居リマス

之ト併行シ事變解決後ノ國際情勢ノ變轉等ニ備フル爲國家總力就中  
國防力ノ充實整備ヲ必須ノ指置ト致シマス即チ今次事變解決ノ效果  
ヲ真ニ根本的ノモノタラシメ得ルヤ否ヤハ寧ロ我方今後ニ於ケル此  
等ノ指置如何ニ懸ルモノカ大テアルト存シマス事變力持久ノ態勢ニ  
移行致シマスル場合ニハ石ノ充實整備ハ一層促進セラルヘキモノテ  
アリマシテ本案ハ此等ノ點ニ關シ十分ノ覺悟ヲ表示セラ。レアルモノ  
ト幕僚部ハ見解致シテ居リマス

4

0018

尙大本營陸軍幕僚部ト致シマシテハ事變發生當時ヨリ長期ニ陷ル場  
合ヲ顧慮シ適時持久ハ態勢ニ轉移シ得ル爲諸般ノ準備ヲ整ヘツツア  
リマスルカ前述我國防上ノ大局的見地、我國是ニ基ク日支國交ノ大  
道等以外ニ於テモ統帥ノ立場トシテ支那ニ至スル兵力行使ノ持久戰  
爭的特質、列強ノ對支援助並帝國ノ對第三國軍備及建設途中ニ在ル  
滿洲國ノ現狀等ニ稽ヘ又統帥部方面ヨリ見タル國際諸情勢、國內及  
國家總力ノ實情等ニ鑑ミマスレハ今次事變ハ其出兵目的ノ本旨達成  
ニ遺憾ナキ限リ成ルヘク速ニ之ヲ終結ニ導クヘキモノト存セラルル  
ノテコサリマス加之最近ノ如キ氣運ニ投シ若我出兵目的ニ適スル媾  
和解決ノ成立ヲ見ルコトヲ得マスレハ當ニ帝國ノ爲ノミナラス日滿  
支三國ノ國力就中國防力ノ過度ノ減耗ヲ防キ防共ヲ容易ニシ帝國力將

5

REEL No. A-0215

0015

アジア歴史資料センター

來ニ處スヘキ此等ノ充實整備イ餘力ヲ存キメ東洋ノ平和ノ爲誠ニ  
喜フヘキ所テコサリマス從テ帝國トシテハ自下ノ時期ニ於テハ尙先  
ツ此目的ノ爲政戰兩略上ニ於ケル諸般ノ指置ヲ統合シテ善處スヘキ  
モノト考へ本案ヲ以テ此趣旨ニ合スルモノト解シ同意致シマシタ次  
第テコサリマス

6

0020

0019

極秘

軍令部總長宮殿下御口述覺

本方針ニ對シマシテハ異存アリマセヌ、又參謀總長ノ述ヘラレマシ  
タ所見ノ主旨ニハ同感テアリマス、尙本方針ニ基キ實行スヘキ條項

ノ第三即

本事變ニ對處シ國際情勢ノ變轉ニ備ヘ前記方針ノ貫徹ヲ期スル爲  
國家總力就中國防力ノ急速ナル培養整備ヲ促進シ第三國トノ友好  
關係ノ保持改善ヲ計ルモノトス

ハ支那現中央政府カ和ヲ求メ來ラサル場合ハ勿論和ヲ求ムル場合ニ  
於キマシテモ今後ノ國際情勢力益々機微カラムトシマスルニ鑑ミ特  
ニ重要テアルト認メマスカラ各部協力一致シテ極力之力實現ニ邁進  
スルノ要アルモノト認メテ居リマス

REEL No. A-0215

0016

アジア歴史資料センター

昭和十三年十一月三十日  
御前會議決定

日支新開係調整方針ニ付 御前會議ニ關スル件

昭和十三年十一月廿八日  
五相會議決定

1  
今次事變處理ノ根本方針ニ付キマシテハ一月十一日ノ御前會議ニ於テ決定セラレ且其後ノ情勢推移ニ伴フ措置ニ付キマシテハ其都度内奏致シマシタ所ニ御座イマスガ此際日支新開係調整ノ準據ヲ定ムル必要ガ御座イマスノデ茲ニ案フ具シ御決定ヲ御願ヒスル次第ニ御座イマス

日支新開係調整方針

昭和十三年十一月二十八日  
五相會議決定 御前會議案

0022

0021

- 2  
1  
一、互惠ヲ基調トスル日滿支一般提携就中善隣友好、防共共同防衛、經濟提携原則ノ設定  
二、北支及蒙疆ニ於ケル國防上並經濟上（特ニ資源ノ開發利用）日支強度結合地帶ノ設定  
三、揚子江下流域ニ於ケル經濟上日支強度結合地帶ノ設定

REEL No. A-0215

0017

アジア歴史資料センター

四、南支沿岸特定島嶼ニ於ケル特殊地位ノ設定

○之カ具体的事項ニ關シテハ別紙要項ニ準據ス

8

別  
紙

日支新關係調整要項

第一 善隣友好ノ原則ニ關スル事項

日満支三國ハ相互ニ本然ノ特質ヲ尊重シ渾然相提携シテ東洋ノ平和

ヲ確保シ善隣友好ノ實ヲ擧クル爲各般ニ亘リ互助連環友好促進ノ手

段ヲ講スルコト

一、支那ハ滿洲帝國ヲ承認シ日本及滿洲ハ支那ノ領土及主權ヲ尊重シ

日満支三國ハ新國交ヲ修復ス

二、日満支三國ハ政治、外交、教育、宣傳、交易等諸般ニ亘リ相互ニ

好誼ヲ破壊スル力如キ措置及原因ヲ撤廃シ且將來ニ亘リ之ヲ禁絶ス

4

0024

0023

REEL No. A-0215

0018

アジア歴史資料センター

REEL No. A-0215

0013

アジア歴史資料センター

0025

- 三、日滿支三國ハ相互提携ヲ基調トスル外交ヲ行ヒ之ニ反スルカ如キ  
一切ノ措置ヲ第三國トノ關係ニ於テ執ラサルモノトス  
四、日滿支三國ハ文化ノ融合、創造及發展ニ協力ス  
五、新支那ノ政治形態ハ分治合作主義ニ則リ施策ス  
六、日本ハ新中央政府ニ少數ノ顧問ヲ派遣シ新建設ニ協力ス特ニ強度  
結合地帶其他特定ノ地域ニ在リテハ所要ノ機關ニ顧問ヲ配置ス  
七、日滿支善隣關係ノ具現ニ伴ヒ日本ハ漸次租界、治外法權等ノ返還

ヲ考慮ス

5

第二 共同防衛ノ原則ニ關スル事項

1. 日滿支三國ハ各々其領域内ニ於ケル共產分子及組織ヲ芟除スルト  
共ニ防共ニ關スル情報宣傳等ニ關シ提携協力ス  
シ協力スルコト  
2. 日支協同シテ防共ヲ實行ス  
之カ爲日本ハ所要ノ軍隊ヲ北支及蒙疆ノ要地ニ駐屯ス  
3. 別ニ日支防共軍事同盟ヲ締結ス  
4. 第二項以外ノ日本軍隊ハ全般並局地ノ情勢ニ即應シ成ルヘク早期  
ニ之ヲ撤收ス  
6. 但保障ノ爲北支及南京、上海、杭州三角地帶ニ於ケルモノハ治安

0026

0027

ノ確立スル迄之ヲ駐屯セシム  
共通ノ治安安寧維持ノタメ揚子江沿岸特定ノ地點及南支沿岸特定  
ノ島嶼及之ニ臨聯スル地點ニ若干ノ艦船部隊ヲ駐屯ス尙揚子江及  
支那沿岸ニ於ケル艦船ノ航泊ハ自由トス

五、支那ハ前項治安協力ノタメノ日本ノ駐兵ニ對シ財政的協力ノ義務  
ヲ負フ

六、日本ハ概不駐兵地域ニ存在スル鐵道、航空、通信並主要港灣水路  
ニ對シ軍事上ノ要求權及監督權ヲ保留ス  
七、支那ハ警察隊及軍隊ヲ改善整理スルト共ニ之力日本軍駐屯地域ノ  
配置並軍事施設ハ當分治安及國防上必要ノ最少限トス  
日本ハ支那ノ軍隊警察隊建設ニ關シ顧問ノ派遣、武器ノ供給等ニ  
依リ協力ス

### 第三 經濟提携ノ原則ニ關スル事項

日滿支三國ハ互助連環及共同防衛ノ實ヲ擧クルタメ產業經濟等ニ關

シ長短相補有無相通ノ趣旨ニ基キ共同互惠ヲ旨トスルコト

一、日滿支三國ハ資源ノ開發、貿易、交易、航空、交通、通信、氣象、  
測量等ニ關シ前記主旨並以下各項ノ要旨ヲ具現スル如ク所要ノ協  
定ヲ締結ス

二、資源ノ開發利用ニ關シテハ北支蒙疆ニ於テ日滿ノ不足資源就中埋  
藏資源ヲ求ムルヲ以テ施策ノ重點トシ支那ハ共同防衛並經濟的結  
合ノ見地ヨリ之ニ特別ノ便益ヲ供與シ其他ノ地域ニ於テモ特定資  
源ノ開發ニ關シ經濟的結合ノ見地ヨリ必要ナル便益ヲ供與ス

三、一般產業ニ就テハ努力メテ支那側ノ事業ヲ尊重シ日本ハ之ニ必要ナ

0028

REEL No. A-0215

0020

アジア歴史資料センター

ル援助ヲ與フ

農業ニ關シテハ乙力改良ヲ援助シ支那民生ノ安定ニ資スルト共ニ日本ノ所要原料資源ノ培養ヲ圖ル

四 支那ノ財政、經濟政策ノ確立ニ關シ日本ハ所要ノ援助ヲナス

五 交易ニ關シテハ妥當ナル關稅並海關制度ヲ採用シ日滿支間ノ一般通商ヲ振興スルト共ニ日滿支就中北支間ノ物資需給ヲ便宜且合埋的ナラシム

六 支那ニ於ケル交連、通信、氣象並測量ノ發達ニ關シテハ日本ハ所要ノ援助乃至協力ヲ與フ

七 全支ニ於ケル航空ノ發達、北支ニ於ケル鐵道（龍海線ヲ含ム）

八 支那間及支那沿岸ニ於ケル主要海運、揚子江ニ於ケル水運並北支

及揚子江下流ニ於ケル通信ハ日支交連協力ノ重點トス

附

一 支那ハ重慶勃發以來支那ニ於テ日本國臣民ノ蒙リタル權利利益ノ損害ヲ補償ス

二 第三國ノ支那ニ於ケル經濟活動乃至權益力日滿支經濟促進強化ノ爲自然ニ制限セラルハ當然ナルモ右強化ハ主トシテ國防及國家存立ノ必要ニ立脚セル範圍ノモノタルベク右目的ノ範圍ヲ超ヘテ

第三國ノ活動乃至權益ヲ不當ニ排除制限セントスルモノニ非ス

10

0030

0029

REEL No. A-0215

0021

アジア歴史資料センター

昭和十三年十一月三十日  
御前會議決定

日支新關係調整方針ニ付 御前會議ニ關スル件

昭和十三年十一月廿八日  
五相會議決定

今次事變處理ノ根本方針ニ付キマシテハ一月十一日ノ 御前會議ニ  
於テ決定セラレ且其後ノ情勢推移ニ伴フ措置ニ付キマシテハ其都度  
内奏致シマシタ所デ御座イマスガ此際日支新關係調整ノ準據ヲ定ム  
ル必要方御座イマスノデ茲ニ案ヲ具シ御決定ヲ御願ヒスル次第テ御  
座イマス

1  
はらくらん  
はらくらん

27  
日支新關係調整方針

昭和十三年十一月二十八日  
五相會議決定 御前會議

45  
0032

日滿支三國ハ東亞ニ於ケル新秩序建設ノ理想ノ下ニ相互ニ善隣トシ  
テ結合シ東洋平和ノ権輿タルコトヲ共同ノ目標ト爲ス之カ爲基礎ダ

ルヘキ事項左ノ如シ

一、互惠ヲ基調トスル日滿支一般提携就中善隣友好、防共共同防衛、  
經濟提携原則ノ設定

二、北支及蒙疆ニ於ケル國防上並經濟上（特ニ資源ノ開發利用）日支  
強度結合地帶ノ設定

三、揚子江下流地域ニ於ケル經濟上日支強度結合地帶ノ設定

REEL No. A-0215

0022

アジア歴史資料センター

四、南支沿岸特定島嶼ニ於ケル特殊地位ノ設定

之カ具体的的事項ニ關シテハ別紙要項ニ準據ス

8

別 紙

日支新關係調整要項

第一 善隣友好ノ原則ニ關スル事項

日滿支三國ハ相互ニ本然ノ特質ヲ尊重シ渾然相提携シテ東洋ノ平和ヲ確保シ善隣友好ノ實ヲ擧クル爲各般ニ亘リ互助連環友好促進ノ手段ヲ講スルコト

一、支那ハ滿洲帝國ヲ承認シ日本及滿洲ハ支那ノ領土及主權ヲ尊重シ日滿支三國ハ新國交ヲ修復ス

二、日滿支三國ハ政治、外交、教育、宣傳、交易等諸般ニ亘リ相互ニ好誼ヲ破壊スルカ如キ措置及原因ヲ撤廢シ且將來ニ亘リ之ヲ禁絶

4  
ス

0034

0033

REEL No. A-0215

0023

アジア歴史資料センター

0035

- 三、日滿支三國ハ相互提携ヲ基調トスル外交ヲ行ヒ之ニ反スル力如キ  
一切ノ措置ヲ第三國トノ關係ニ於テ執ラサルモノトス  
四、日滿支三國ハ文化ノ融合、創造及發展ニ協力ス  
五、新支那ノ政治形態ハ分治合作主義ニ則リ施策ス  
蒙疆ハ高度ノ防共自治區域トス

上海、青島、廈門ハ各々既定方針ニ基ク特別行政區域トス  
六、日本ハ新中央政府ニ少數ノ顧問ヲ派遣シ新建設ニ協力ス特ニ強度  
結合地帶其他特定ノ地域ニ在リテハ所要ノ機關ニ顧問ヲ配置ス  
七、日滿支善隣關係ノ具現ニ伴ヒ日本ハ漸次租界、治外法權等ノ返還

ヲ考慮ス

5

0036

第二 共同防衛ノ原則ニ關スル事項

日滿支三國ハ協同シテ防共ニ當ルト共ニ共通ノ治安安寧ノ維持ニ關  
シ協力スルコト

- 一、日滿支三國ハ各々其領域内ニ於ケル共產分子及組織ヲ芟除スルト  
共ニ防共ニ關スル情報宣傳等ニ關シ提携協力ス  
二、日支協同シテ防共ヲ實行ス  
之カ爲日本ハ所要ノ軍隊ヲ北支及蒙疆ノ要地ニ駐屯ス  
三、別ニ日支防共軍事同盟ヲ締結ス  
四、第二項以外ノ日本軍隊ハ全般竝局地ノ情勢ニ即應シ成ルヘク早期  
ニ之ヲ撤收ス  
六、但保障ノ爲北支及南京、上海、杭州三角地帶ニ於ケルモノハ治安

REEL No. A-0215

0024

アジア歴史資料センター

ノ確立スル迄之ヲ駐屯セシム

共通ノ治安安寧維持ノタメ揚子江沿岸特定ノ地點及南支沿岸特定ノ島嶼及之ニ關聯スル地點ニ若干ノ艦船部隊ヲ駐屯ス尙揚子江及支那沿岸ニ於ケル艦船ノ航泊ハ自由トス

五、支那ハ前項治安協力ノタメノ日本ノ駐兵ニ對シ財政的協力ノ義務ヲ負フ

六、日本ハ概ニ駐兵地域ニ存在スル鐵道、航空、通信並主要港灣水路ニ對シ軍事上ノ要求權及監督權ヲ保留ス

七、支那ハ警察隊及軍隊ヲ改善整理スルト共ニ之カ日本軍駐屯地域ノ配置並軍事施設ハ當分治安及國防上必要ノ最少限トス

八、日本ハ支那ノ軍隊警察隊建設ニ關シ顧問ノ派遣、武器ノ供給等ニ依リ協力ス

0038

0037

0025

アジア歴史資料センター

第三 經済提携ノ原則ニ關スル事項

2.5  
日滿支三國ハ互助連環及共同防衛ノ實ヲ擧クルタメ産業經濟等ニ關シ長短相補有無相通ノ趣旨ニ基キ共同互惠ヲ旨トスルコト

一、日滿支三國ハ資源ノ開發、開拓、交易、航空、交通、通信、氣象、測量等ニ關シ前記主旨並以下各項ノ要旨ヲ具現スル如ク所要ノ協定ヲ締結ス

二、資源ノ開發利用ニ關シテハ北支蘇滬ニ於テ日滿ノ不足資源就中埋藏資源ヲ求ムルヲ以テ施策ノ重點トシ支那ハ共同防衛竝經濟的結合ノ見地ヨリ之ニ特別ノ便益ヲ供與シ其他ノ地域ニ於テモ特定資源ノ開發ニ關シ經濟的結合ノ見地ヨリ必要ナル便益ヲ供與ス

三、一般產業ニ就テハ努力メテ支那側ノ事業ヲ尊重シ日本ハ之ニ必要ナ

0039

<sup>29</sup>  
ル援助ヲ興フ

農業ニ關シテハ之カ改良ヲ援助シ支那民生ノ安定ニ資スルト共ニ日本ノ所要原料資源ノ培養ヲ圖ル

四 支那ノ財政經濟政策ノ確立ニ關シ日本ハ所要ノ援助ヲナス

五 交易ニ關シテハ妥當ナル關稅並海關制度ヲ採用シ日滿支間ノ一般通商ヲ振興スルト共ニ日滿支就中北支間ノ物資需給ヲ便宜且合埋的ナラシム

六 支那ニ於ケル交連、通信、氣象並測量ノ發達ニ關シテハ日本ハ所要ノ援助乃至協力ヲ興フ

七 全支ニ於ケル航空ノ發達、北支ニ於ケル鐵道（瀋海線ヲ含ム）、

八 支間及支那沿岸ニ於ケル主要海運、揚子江ニ於ケル水運並北支

0040

10

<sup>29</sup>  
及揚子江下流ニ於ケル通信ハ日支交連協力ノ重點トス

<sup>10</sup>  
九 日支協力ニ依リ新上海ヲ建設ス

附

一 支那ハ事變勃發以來支那ニ於テ日本國臣民ノ蒙リタル權利利益ノ損害ヲ補償ス

二 第三國ノ支那ニ於ケル經濟活動乃至權益カ日滿支經濟提携強化ノ爲自然ニ制限セラルハ當然ナルモ右強化ハ主トシテ國防及國家存立ノ必要ニ立脚セル範圍ノモノタルヘク右目的ノ範圍ヲ超ヘテ

第三國ノ活動乃至權益ヲ不當ニ排除制限セントスルモノニ非ス

REEL No. A-0215

0026

アジア歴史資料センター

極秘

一〇部ノ内第六號

西「汪」工作指導ニ關スル件

昭和十四年五月二十七日  
五相會議提出案

七月二日「汪」ノ指導ニ方リテハ帝國トシテ先ツ左記新中央政府樹立ニ關スル  
事久遠外此  
ノ事人志士方針ヲ確立シ之ニ基キ別紙ノ如キ腹案ニテ指導ス

六月五相會議

八月九日ヨリ迄ト五日間

新中央政府樹立方針案

記

左

一、新中央政府ハ吳、汪、既成政權、蘇聯改替ノ重慶政府等ヲ以テ其ノ構成分子トナシ支那側ノ問題トシテ此等ノ適宜協力ニ依リ之ヲ樹立スヘキモノナリ

二、新中央政府ハ日支新關係調整ニ關スル原則ニ準據シテ日支ノ國交ヲ正式ニ調整スヘク之カ構成分子ハ豫メ右原則ヲ受諾スヘキモノナリ

三、新中央政府ノ構成並樹立ノ時期ハ全局ニ亘る戰爭指導上ノ段階ニ即シ自主的見地ニ基キテ律セラル之カ爲特ニ人の要素及基礎的實力ノ具備ヲ必要トナス

四、支那將來ノ政治形態ハ其ノ歴史及現實ニ即スル分治合作主義タルヘキモ其ノ内容ニ關シテハ日支新關係調整方針ニ準據シ北支ノ國防上及經濟上（蒙疆ハ特ニ高度ノ防共自治區域）又揚子江下流地域ノ經濟上ノ日支強度結合地帶タラムルノ外、內政問題トシテ支那側ニ委スルヨ本則トシ、努メテ之ニ干渉スルコトヲ避ク、特ニ中央政權成立ノ形態ニ即シ且其ノ爲政者ノ意志ヲ尊重スルト共ニ既成政權ニ對スル我特殊關係ノ處理ヲ考慮ス

五、國民黨立三民主義ニ關シテハ容共抗日ヲ放棄シ親日滿防共ノ方針ト

0041

REEL No. A-0215

0027

アジア歴史資料センター

スル如ク改ムルニ於テハ他ノ親日防共ヲ主義トスルモノト等シク其  
ノ存在ヲ妨ケス  
六重慶政府カ抗日容共政策ヲ放棄シ且所要ノ人的改善ヲ行フコト並前  
記第一及第二項ヲ受諾シタル場合ニハ之ヲ屈伏ト認メ新中央政府構  
成ノ二分子タラシム

0042

REEL No. A-0215

0028

アジア歴史資料センター

別紙

「汪」「吳」工作指導腹案

一、指導ノ方針

汪ヲシテ吳及既成政權等ト協力シ文武ノ實力ヲ具備セル強力ナル政府ヲ樹立セシムル爲先ツ所要ノ準備ヲナサシメ且其ノ間特ニ重慶政府諸勢力就中其ノ要人ノ獲得ニ努力セシムル如ク指導スルヲ主眼トス

二、指導要領

1. 汪ヲシテ吳佩孚其他ノ實力派ト結ヒ且既成政權等ト協力シ強力ナル政府ヲ樹立スル爲所要ノ準備工作ヲナサシム  
而シテ準備工作ハ基礎地盤ノ設定、對重慶工作、既成諸勢力ノ糾合

合、資金準備、兵力整備等ノ各般ニ亘ルモノトシ之ニ對スル我方ノ表面的干與ハ努メテ之ヲ制限ス

2. 新中央政府ノ樹立ハ我自主的戰爭指導ノ段階ニ即應シテ律セラル  
ヘク之ニ關シ帝國トシテ汪ニ要望スヘキ條件左ノ如シ

イ、新中央政府樹立準備期間ニ於テ吳汪先ツ合作シ且ツ既成政權等ト協力シ極力重慶政府諸勢力就中其ノ要人ヲ獲得スルニ努力ルト共ニ基礎地盤ヲ確立シ以テ文武ノ實權ヲ具備セル強力ナル政府ヲ樹立セシム  
ロ、新中央政府樹立ノ準備工作トシテ基礎地盤ノ設定ハ漢口、廣東等未タ政權ノ成立セサル區域ニ於テ行フ、希望スルモ已ム  
得サレハ其ノ區域ニ就テハ更ニ協議ノ上之ヲ定ム

0043

0044

ハ、新中央政府ハ日支新諒係調整ニ關スル原則ヲ認ムヘク之力樹立時機並其内容等ハ右準備工作ノ進展、就中人的要素及基礎的實力ノ具備ノ程度ニヨリ日本側ト協議ノ上之ヲ定ムルモノトス  
但シ支那將來ノ政治形態ハ分治合作主義トシ其ノ内容ハ日支新關係調整方針ニ準據シ北支ヲ國防上及經濟上（蒙疆ハ特ニ高度ノ防共自治區域）又揚子江下流地域ヲ經濟上ノ日支強度結合地帶タラシムルコトヲ受諾セシム、又既成政權ニ對スル我特殊關係ニ就テハ十分考慮マシム

ニ、國民黨並ニ三民主義ニ關シテハ容共抗日ヲ放棄シ親日滿防共ヲ方針トスル如ク改ムルニ於テハ他ノ親日防共ヲ主義トスルモノト等シク其存在スルヲ妨ケス

ホ、事變中我カ占據地域内ニ於テ青天白日旗ヲ掲揚スルヲ許サス

三、所要經費  
本工作實施ノ爲既定經費以外ノ支出ヲ必要トスル場合ハ別途考慮スルモノトス

REEL No. A-0215

0030

アジア歴史資料センター

REEL No. A-0215

0031

アジア歴史資料センター

20部ノ内第5號

平沼首相汪會談要領

東平局第一課長印

昭和十四年六月十日自午前八時  
至同九時半

0045

極秘

1 汪、今日拜顔ノ上御指教ヲ仰ク機會ヲ得タルコトハ光榮ニ堪エス、  
平、貴下カ日支問題ノ爲メ努力セラレ居ルハ敬服スル所ナリ御承知  
ノ通り日本ハ上ニ萬世一系ノ皇室ヲ戴キ皇室ノ御趣旨ハ仁愛ノ  
道ヲ以テ人類ノ平和ヲ維持スルコト古來一貫セル所ナリ而シテ  
日本ハ武ヲ尊フ所謂尙武ノ國ナルカ武ハ此ノ御趣旨ヲ達成スル  
爲メノモノニシテ此ノ點ハ歐米諸國ノ武力トハ全ク異ナルモノ  
ナリ外國人ハ往々此ノ義ヲ解セス日本ノ武ヲ以テ侵略ノ具ナリ  
ト看做スモノアルハ全ク此ノ仁愛ノ大精神ヲ知ラサルモノト謂

0046

フヘシ吾々ハ皇室ヲ輔翼スル責任ノ地位ニアルツ以テ右御趣旨  
ノ實現ニ努力セサルヘカラス而シテ世界人類ノ平和ノ維持ヲ圖  
ルニハ先ツ東洋殊ニ日支兩國ノ間ニ永遠ノ平和ヲ經來セサルヘ  
カラス之力爲メニハ兩國ノ有力者互ニ協力シテ之力實現ニ邁進  
セサルヘカラス貴下カ今同ノ事變ニ際シ日支兩國ノ爲メ奮起セ  
ラレタルニ對シ敬意ヲ表シ其ノ努力ヲ希フ次第ナリ

汪、日本ノ皇室ノ御精神ノ程ハ能ク諒解セリ就テハ御参考迄ニ支那  
現在ノ國民ノ心理ニ付キオ話致スヘシ現在日支平和ノ問題ニ關  
シ共產黨及共產黨ト連絡アリ一部ノ者ハ其ノ眼中支那テク又東  
洋テク全ク「コミニテルン」ノ走狗トシテ活動シ居ルモノニシ  
テ彼等ニ對シテハ奈何トモスヘキナシ即チ最後迄徹底的ニ打倒

REEL No. A-0215

0032

アジア歴史資料センター

0047

スルノ途ヲ取ルノ外ナシ其ノ他大部分ノ國民ニ至ツテハ何レモノ  
心中和平ヲ欲シ日本力數十年來ノ努力ニ依リ築キ上ケタル東洋  
先進國トシテノ地位ヲ認識シ日支兩國提携スルニ非サレハ東洋  
ノ平和ヲ確保スルニ途ナキコトモ亦信シ居ルカ唯此ノ和平ワロ  
ニ出シ得サル事情ニアリ夫レハ今尙大部分ノモノカ唯今オ話ノ  
如キ日本ノ眞意ヲ諒解シ居ラサルカ爲メナリ自分ハ曾テ蔣介石  
ニ對シ數十回ニ亘リ和平ヲ勧メタルモ彼ハ日本ト和スレハ支那  
全土ノ獨立ト自由ハ失ハルヘシ抗戰ヲ繼續スレハ假令一小部分  
ト雖モ占領セラレサル地域タケハ完全ナル支那國土トシテ存在  
スヘシトノ簡単ナル答フナスワ常トセリ是レハ獨リ蔣ノ考ノミ  
ナラス大部分ノ者ノ考フル所ヲ代表シ居ルモノト見サルヘカラ

0048

ス即チ今日支那ノ民衆ハ依然トシテ日本カ是レ丈ケノ武力ト財  
力トヲ犠牲ニシタル以上恐ラク支那支配ノ慾望ヲ捨ツルコトナ  
カルヘシト觀察シ居ルナリ日本政府カ數回ニ亘リ發セル聲明ニ  
依リ勘ナカラサル希望ヲ支那國民ニ與ヘタルコトハ否ムヘカラ  
サル事實ナルモ右希望カ果シテ具体的ニ實現セラルルヤ否ヤア  
危惧シ居リ斯カル氣持ハ重慶其他ノ方面ノ者ヨリノ通信ニ依ル  
モ窺フニ難カラス此ノ日本ノ眞意カ内地ニ届キ居ラサルコトハ  
宣傳方面ニ於テ缺クル所アルニ依ルヘク兩國識者今後ノ努力ニ  
俟タサルヲ得サル譯ナルカ共產黨ハ此ノ支那國民ノ日本ニ對ス  
ル危惧ノ念ヲ利用シ和平ヲ旨フモノハ賣國奴ナリト宣傳シテ壓  
迫ノ手ヲ加へ是レカ爲メ今日支那内地ニ於テ和平ヲ旨フ事極メ

テ 困難ナルノミナラス海外ニ於ケル支那人スラ容易ニ和平ヲ言  
ヒ得サル状況ナリ

平、歐洲ノ國際關係ハ總テ利害ニ基キ利害ニ依リ相争フヲ常トス彼  
ノ歐洲大戰ノ「ベルサイユ」平和條約ノ如キモ要スルニ各國ノ  
利害ノ打算ヲ基礎トセル不合理ナルモノナリ其ノ結果生レタル  
國際聯盟ノ如キモ要スルニ自己ノ利益ヲ主張シ合フ會議タルニ  
過キス既ニ早ク第二次世界戰爭ヲ勃發セシムル危險ヲ含ムモノ  
ナリ我カ東洋ニ於テハ決シテ此ノ歐洲ノ敵ヲ覆ムヘカラズ宣シ  
ク道義ニ基ク關係ヲ樹立シテ永遠ノ平和ヲ確保シ再ヒ斯カル事  
變ノ起ラサルコトニ努ムルヲ要ス

日本ノ行動ハ此ノ東洋永遠ノ平和ヲ確保スル大目的ヲ達成スル

迄ハ斷シテ停止スルモノニ非ス支那國民カ徹底的ニ日本ノ眞意  
ヲ諒解スル迄ハ何處迄モ之ヲ繼續スルコト予ノ斷言スル所ナリ  
殊ニ彼ノ共產黨ニ至ツテハ世界ノ平和ヲ攪亂スル人類ノ敵ニシ  
テ其ノ存在ヲ許スヘカラス吾人ハ最少限度先ツ東洋ノ天地ヨリ  
之ヲ驅逐セサルヘカラス彼レ思想ヲ以テ來レハ吾レ思想ヲ以テ  
之ニ對スヘシ而モ現在ノ狀勢ニテハ武力ヲ以テ之ヲ排撃セサレ  
ハ不可ナル程度ニアリ日本ハ共產主義ノ排撃ノ爲メニハ武力ニ  
訴ヘテモ飽ク迄之ヲヤリ遂ケル方針ナリ蔣介石ノ如キハ恐らく  
心中日本ノ眞意ハ諒解シ居ルナランモ現在容共政策ヲ採リ居ル  
以上日本國民ハ彼ヲ信スルコト能ハ共產黨ト手ヲ切ラサル限  
リ之ヲ許シ難キ次第ナリ

0051

尙日支兩國ハ其ノ相互ノ經濟發展ノ爲メ緊密ナル提携ヲ必要ト  
スル譯ニシテ兩國力右反共ト經濟提携ノ共同目標ニ向ツテ邁進  
スルニハ茲ニ力強キ中央政府ノ樹立セラルモノト予ハ確信シ其ノ成  
ニ貴下ハ全責任ヲ以テ之レニ當ラルモノト予ハ確信シ其ノ成  
功ヲ期待スルト共ニ吾方ニ於テモ充分ナル援助ヲ與フヘキコト  
言フ迄モナシ要スルニ支那力容共抗日ノ政策ヲ一擲シ新東亞建  
設ノ爲メ日本ト協力スルニ至ル様齊闘セラレタシ中央政府樹立  
ニ伴フ具体的的工作ニ關シテハ陸軍大臣、海軍大臣、其他關係各  
大臣ト委シク打合セラレ度シ

7

0052

汪、微力ナカラ中央政府樹立ニ付努力スヘシ尙之力具体的工作ノ進  
行ノ爲メ關係各大臣ト面談ノ機會ヲ與ヘラルコト誠ニ感謝ニ  
堪ヘス唯茲ニ御参考迄一二申述ヘタキ點アリ自分ハ幾ニ高宗武  
ヲ貴國ニ遣ハシ自分ノ意見ヲ述フルト共ニ總理始メ貴國政府當  
局ノ御意見ヲ聽取セシメタルヲ以テ貴國ノ御方針ハ大体諒解シ  
居ル所ナルカ第一、當時蔣介石カ諱然悔悟スレハ蔣ヲ相手トシ  
テ和平ヲ實現スルモ不可ニアラサルヘシトノ豫想ナリシカ事今  
日ニ至リテハ右ハ殆ント見込ナガルヘシ第二ニ國民政府以外ノ  
モノヲ聯合セシメ此ノ時局ヲ擔當セシムヘシトノ意見モアリ  
カカル事態トナラハ吾人モ之ニ參加シテ微力ヲ盡スラ辟セサル  
ヘシト申述ヘ置キタルカ今日支那ノ情勢ヲ見ルニ國民黨ヲ除外

8

REEL No. A-0215

0034

アジア歴史資料センター

0053

シテ其ノ他ノ勢力ヲ以テ時局ヲ收拾スルコトハ極メテ困難ナリ。ト思惟ス第三ニ自分ハ蔣カ時局解決ノ爲メ下野スレハ共ニ下野シ外遊スレハ共ニ外遊スルモ可ナリト云フ氣持ナリシカ蔣ハ之ヲ拒絶シ却ツテ立腹シ居ル状態ニテ最早ヤ自分一人責任ヲ以テ起タサルヘカラサル羽目ニ陥リタリ。

依ツテ自分ハ國民黨ヲ中心トシ之ニ各黨各派ヲ聯合セシメ容共抗日政策ヲ拠據セル國民政府ヲ作ルコト最モ適當ナリト思惟ス蓋シ國民政府ノ形態ヲ存スルコトハ支那國民ヲシテ日本ノ壓迫ノ爲メニ亡ヒタリトノ念ヲ抱カシムルコトヲ避ケ重慶方面ヨリ多數ノ同志ヲ獲得スル爲メ便利ナレハナリ元來國民黨ノ標榜スル三民主義ニ對シテハ堯ニ高宗武ヲ派遣シタル際日本側ニテハ

0054

其ノ共產主義トノ關連性ヲ清算シ所謂新ラシキ三民主義ニ復活セサルヘカラストノ御意見ナリシカ右ハ誠ニ尤モナル御意見ニテ元來孫文先生ノ三民主義ハ共產主義トハ截然別個ノモノニシテ自分等ハ此後此ノ三民主義ノ眞意ヲ發揮スル爲メ最大ノ努力ヲ拂フ心算ナリ。

平、共產主義ト完全ニ離レタル三民主義ノ下ニ國民黨ノ更生ヲ圖リ之レト他ノ各黨各派ヲ聯合セシメ中央政府ヲ組織シ容共抗日ノ政策ヲ改ムル途ヲ講スルコトハ贊成ナリ彼ノ重慶政府ハ今日既ニ中央政府ト言ヒ得サルモノニシテ若シ從來ノ態度ヲ改メ來ルニ於テハ日本ノ仁愛ノ精神ヲ以テ之ヲ容ルルニ吝ナラサレトモ重慶政府カ今次事變ヲ發生セシメタル責任タケハ到底之ヲ免ル

10

REEL No. A-0215

0035

アジア歴史資料センター

0055

ル事能ハス即チ蔣介石ハ下野スルカ當然ナリ而シテ蔣カ下野シタル場合ト雖モ貴下ハ全責任ヲ以テ事ニ當リ重慶方面ノ者ヲ全部轉向セシムルニ一層ノ努力ヲ拂ハレンコトヲ望ム要スルニ此後全責任ヲ以テ此ノ事業達成ニ努メラレンコトヲ要望ス  
汪、自分ハ事ヲ舉ケタル曉重慶其他ノ方面ヨリ果シテ幾何ノ者ヲ集メ得ルヤ今斷言ヲ憚ルトコロナルカ少クモ國民黨ニ關スル限り黨ト共ニアルコト數十年ノ歴史ヲ有スル者ナルヲ以テ督ツテ國民黨既往ノ誤レル政策ヲ改メ東洋和平實現ノ一勢力タラシムル事ハ自分ノ責任ニ於テ之ヲ斷行スルノ決意ナル事ハ茲ニ明言シ得ル處ナリ

11 平、充分御奮闘ヲ望ム

0056

汪、自分ハ曾テ三十四年前東京ニ留學シ居リ當時總理カ司法官時代公ニセラレタル法律ニ關スル講義ヲ讀ミタル事アリ爾來敬慕ノ念ニ堪エ、サリシカ圖ラス面談ノ機會ヲ得テ欣快ニ堪エス

12